

日本の機関リポジトリ 発展の歴史

2022年9月27日

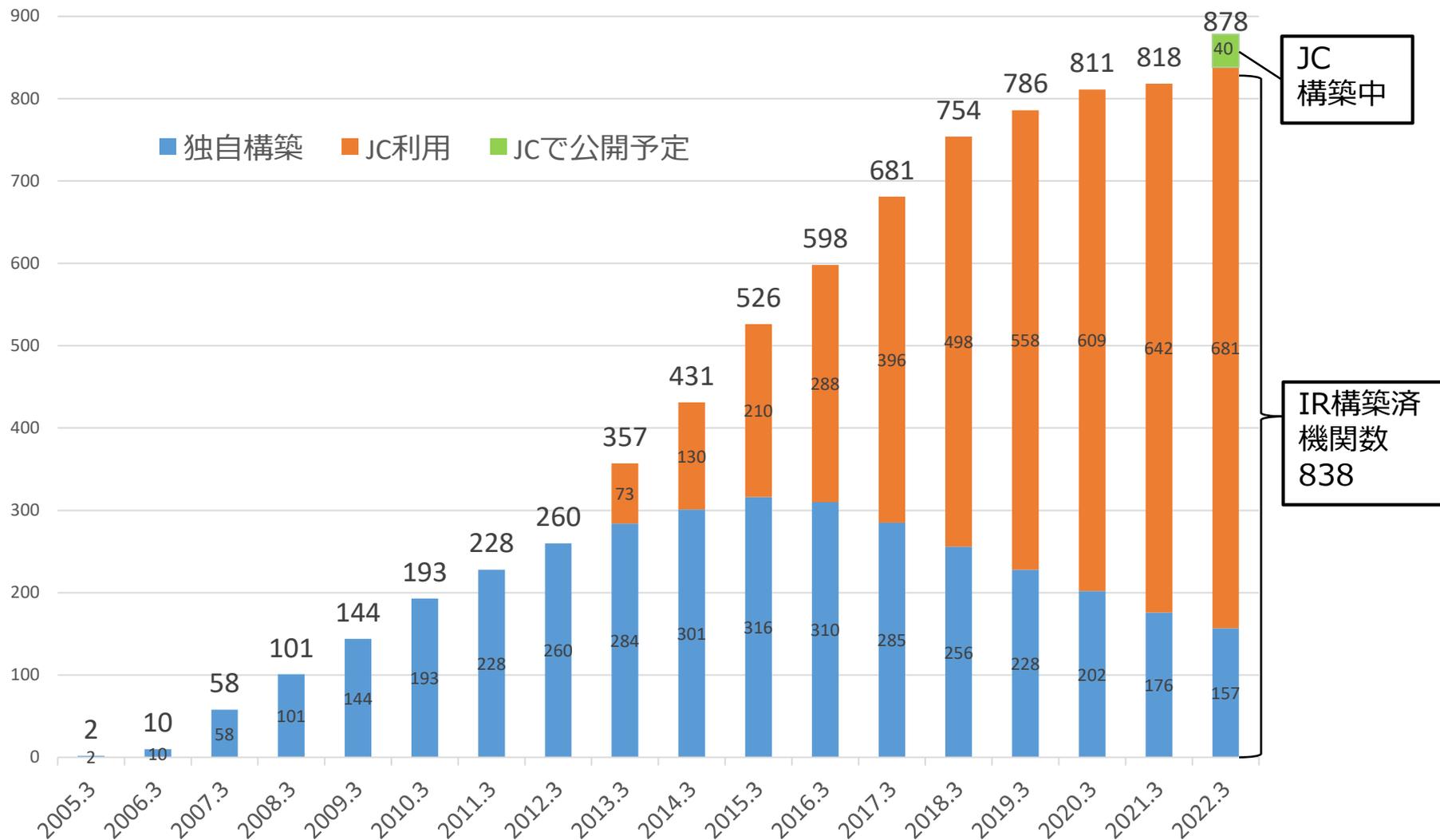
第12回学術コミュニケーションセミナー(月刊JPCOAR)

江川 和子

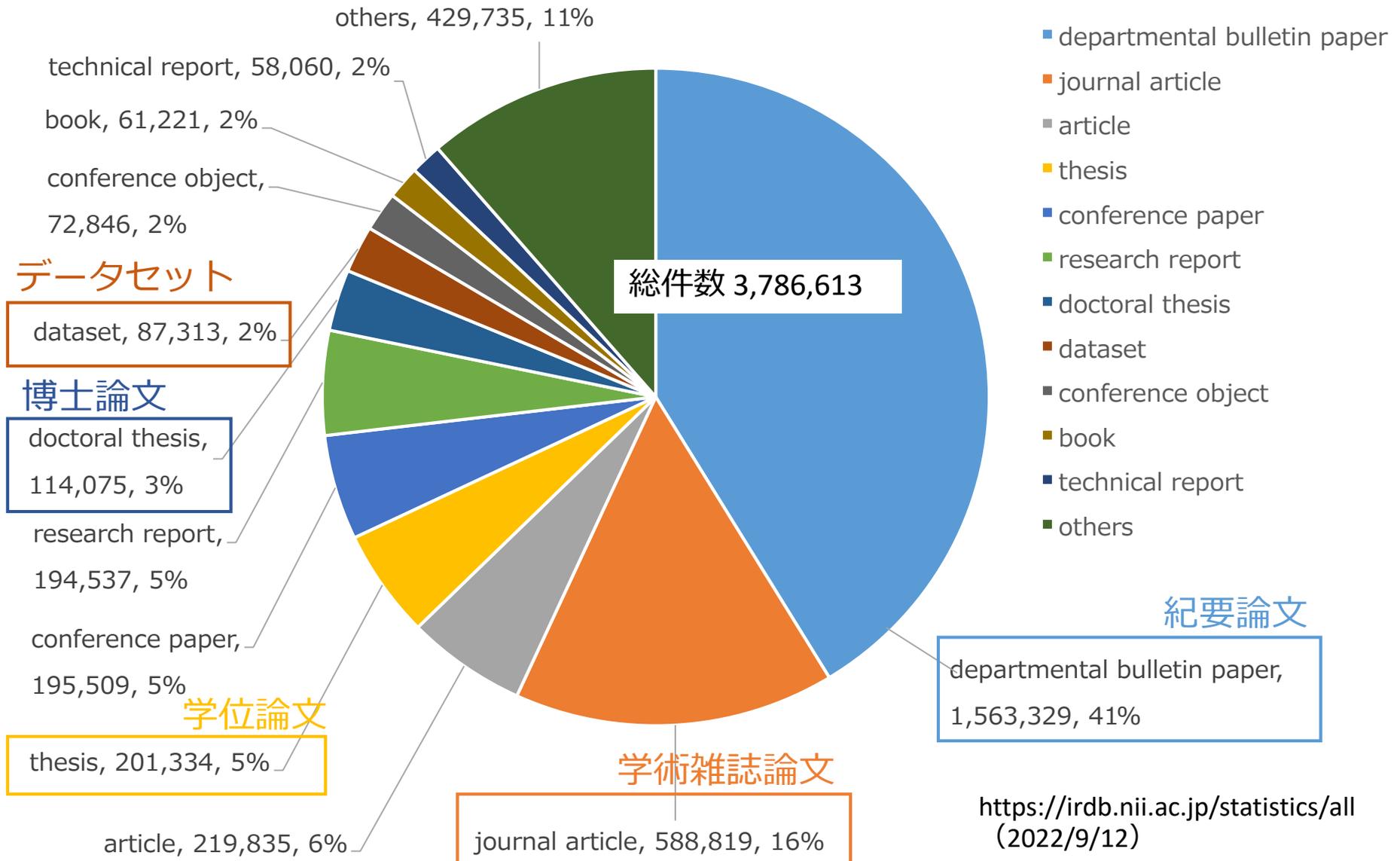
国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター
JPCOAR システム開発・連携作業部会



機関リポジトリ統計：公開機関の推移

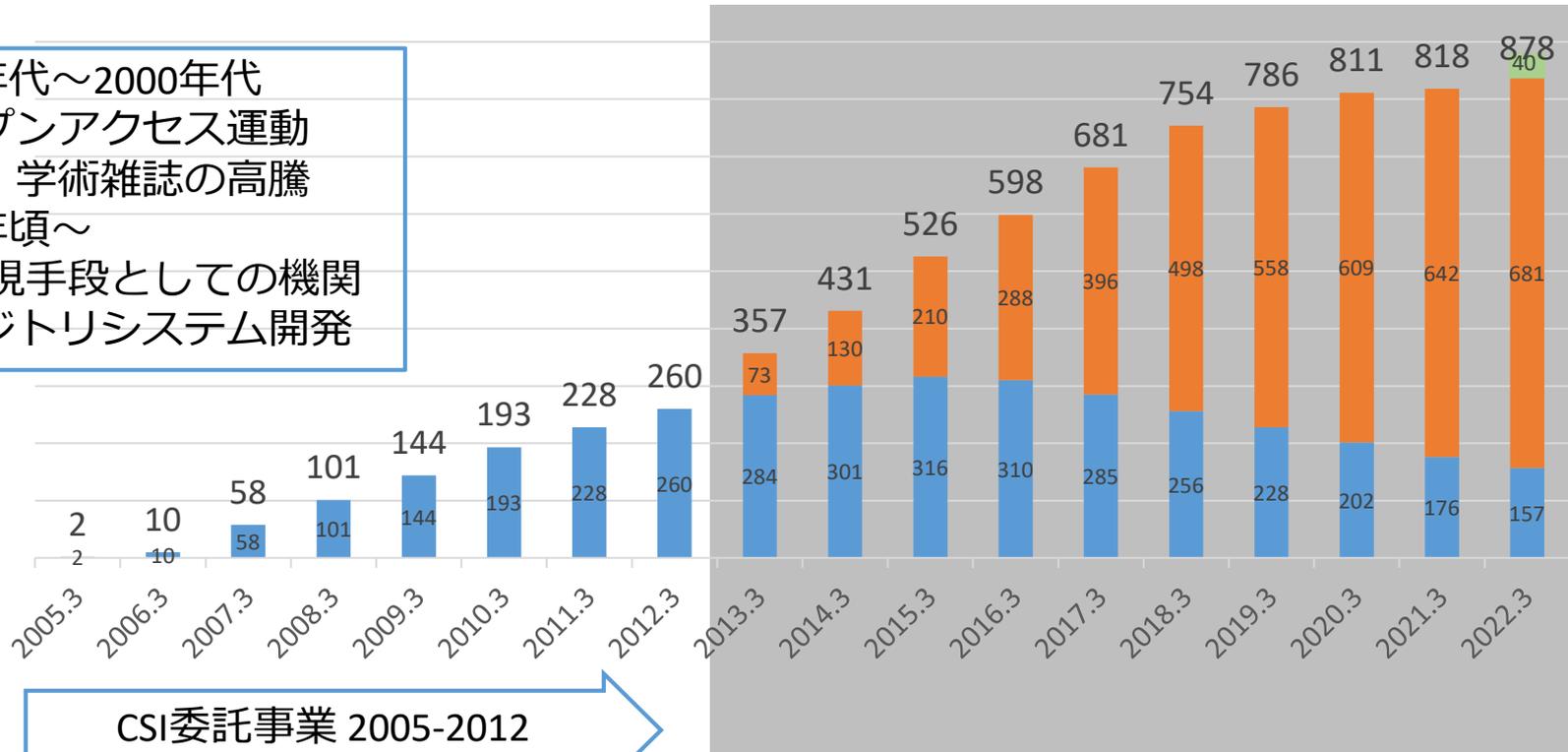


機関リポジトリ統計：資源タイプ別コンテンツ



日本の機関リポジトリの歴史①

- ・1990年代～2000年代
オープンアクセス運動
背景：学術雑誌の高騰
- ・2000年頃～
OA実現手段としての機関
リポジトリシステム開発



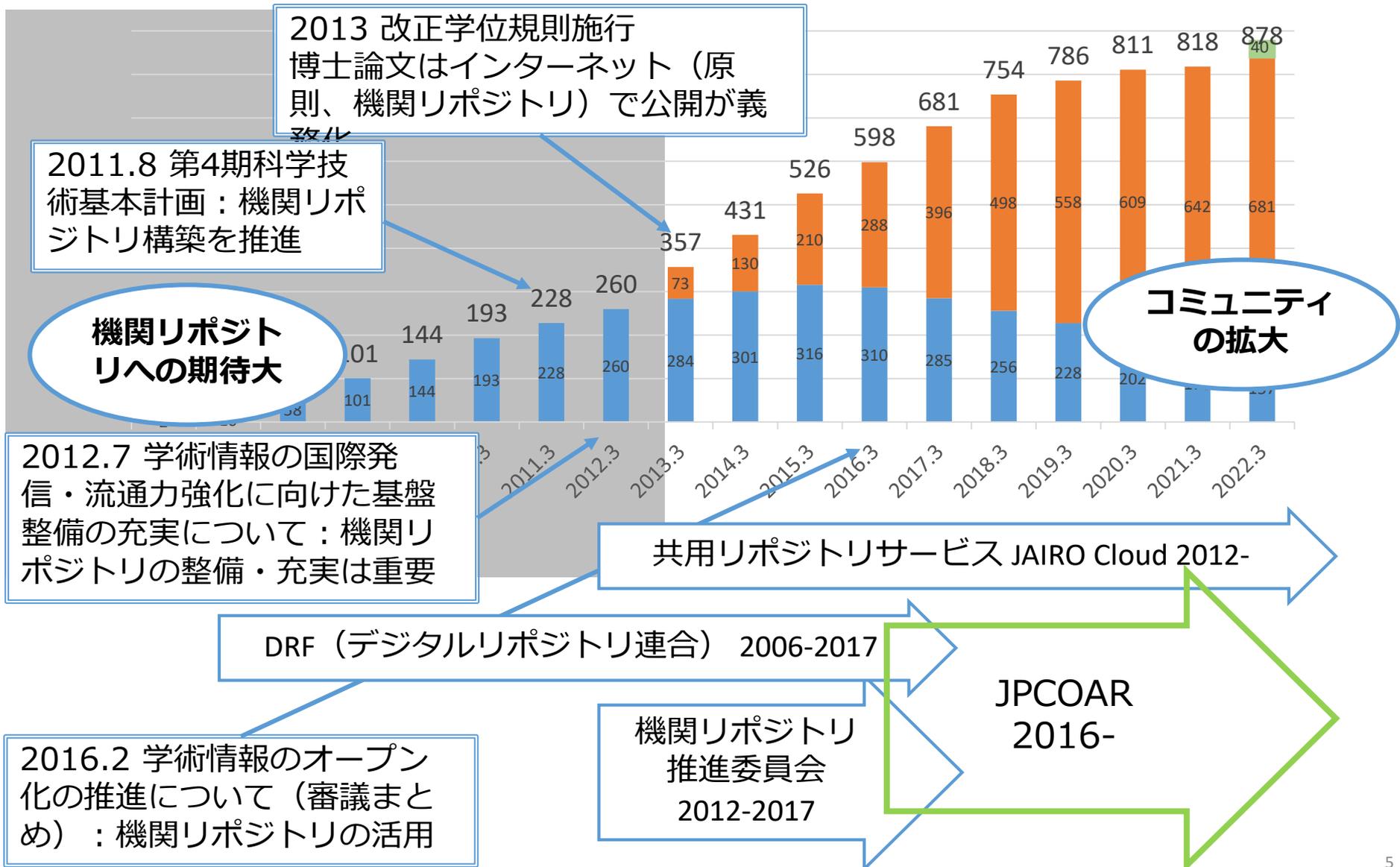
CSI委託事業 2005-2012

DRF (デジタルリポジトリ連合) 2006-2017

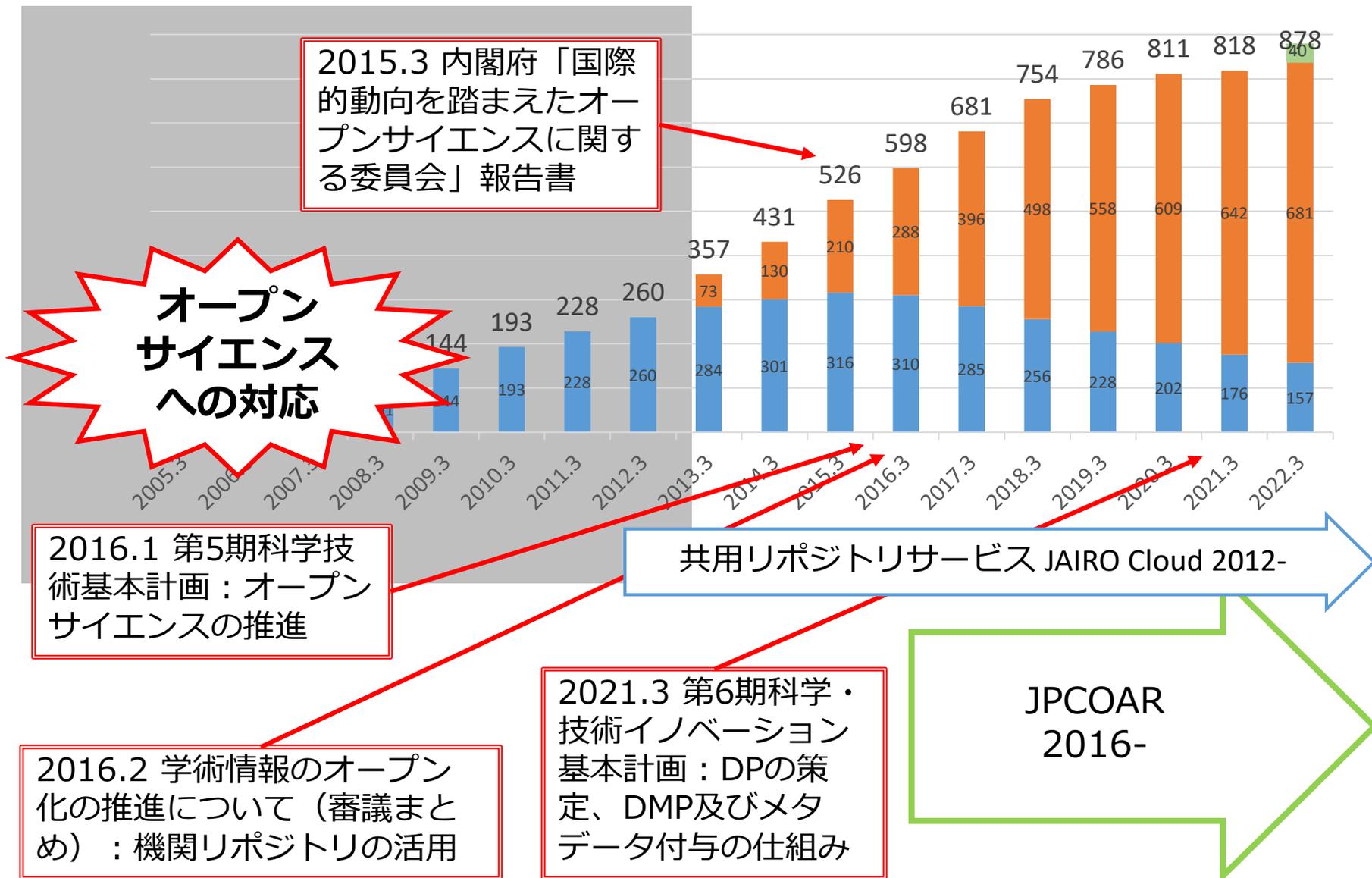
2004 学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト (国立6大学)

コミュニティの力

日本の機関リポジトリの歴史②



日本の機関リポジトリの歴史③



発展の振り返り

- 20年弱の歴史：量的な拡大、多様性は達成
→方向性が定まらない弱みにもなっている
- オープンアクセスにおける、機関リポジトリの新たな役割？
- オープンサイエンス（研究データの管理・利活用）において、本格的な実践が必要

ありがとうございました (egawa@nii.ac.jp)